

都市プランナーズビジョン2024

Our Vision as Urban Planners

このビジョンは日本都市計画家協会設立30年を契機に取りまとめたものです。この30年の社会の変化は著しく、今後は更に大きな変化が予想されます。その変化に我々都市プランナーはどのように対応し、行動していくべきでしょうか。本稿はその「ビジョン」をご提示し、皆さんとともに実行しようというものです。

認定NPO法人 日本都市計画家協会
Japan Society Urban and Regional Planners



Contents

都市プランナーズビジョン2024

1. 都市計画・まちづくりをめぐる30年の流れ
2. 今後どのような社会を目指すべきなのか？
3. 都市プランナーが果たすべき役割
4. ローカルプランニングを考える5つの要素





1. 都市計画・まちづくりをめぐる30年の流れ

経済の低迷と災害の多発、地域社会の弱体化

91年のバブル崩壊以降この30年間の日本は、都市の急速な拡大と過密化が進む中、長期にわたる経済の停滞と少子高齢化、大都市への人口集中化により地方都市の衰退が振興した期間でした。また、95年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災はじめ自然災害による被害が頻発した時代でもあります。

世界的には温暖化が深刻化し、脱炭素社会への移行やSDGsなど都市政策における国際目標が明確となってきました。またインターネットを始めとする技術革新によって世界と地域や個人とのつながりが強まりました。世界に蔓延したコロナ禍を契機とした働き方や社会サービスの変化、高齢化と単身世帯増加による個人の孤立化の進行といった状況も発生しています。さらに国際紛争の勃発により世界規模で安全保障や資源エネルギー問題の深刻化が起こり、それは私たちの日常生活にも影響を及ぼしています。

総じて、**マクロな視点では地球規模の社会の持続・安定性、ミクロな視点では地域社会の弱体化といった問題が深刻化してきた時代**と捉えることができるでしょう。

都市やまちを取り巻く環境・社会・経済の状況変化

- バブル崩壊・地域経済の低迷
- 大都市集中時代の終焉
- 人口減少と高齢化の進行、地方都市の衰退加速
- 大規模激甚災害の頻発と安全至上主義への傾倒
- 地球環境問題の深刻化と国際目標（脱炭素化、生物多様性）の浸透
- 地域コミュニティの崩壊、人間の孤独化
- 社会状況の変化に対応する都市計画制度の欠如、都市プランナーの対応の不足



1. 都市計画・まちづくりをめぐる30年の流れ

多様な主体が参加する都市計画・まちづくりへの変化

都市計画の方向性にも変化があり、92年の都市計画法改正により都市計画への住民の参加が明文化され、マスタープランの策定や地域主体のまちづくりが定着してきました。その後各種の法改正や新法成立で、歴史的な資源を活用したまちづくりや景観まちづくり、新規開発におけるアーバンデザインの導入や仕組みの定着など、多くの地域が「訪れる地域」としての視点を持ったことも含め、地域特性や固有性を活かした質の高い「場」づくりを目指すまちづくりが進められてきました。

2000年代以降は、エリアマネジメントの概念の普及とともに、市民が都市を「楽しみ」、そのような「場」を官民連携で持続可能な仕組みとしてマネジメントする方向にシフトしてきました。さらに、都市計画やまちづくりの担い手も、市民のみならず様々な主体や企業が参加するかたちが定着し、都市計画が「行政マター」から「市民や企業らとも協働して実現させるもの」へと変化し、実験と検証を積み重ねてその地域にふさわしい「場」や「コト」を定着させることを重視する方向に変わってきたとも言えます。

都市計画の方向性

- 都市マスタープランと住民参加・地域主体のまちづくりの進展
- パブリックライフなど「生活」の質への着目
- 都市生活を楽しむ「場」としての都市計画への思考転換
- まちづくりへの多様な主体、企業の参加、アーバニスト概念
- DX,GXなどの計画技術・概念の導入
- SDGs及びニュー・アーバンアジェンダの概念による都市づくり



2. 今後どのような社会を目指すべきなのか？

我々はこれからどのような社会を目指すべきなのでしょう。今後やのプランナーのあり方を考える前提として、社会の将来像を描いてみます。

①地域社会の価値感：ローカルと個人を大事にする社会

長らく続いた経済の停滞と人口減少、地域の衰退問題などを踏まえ、今後の都市は地域の固有性を重視した、人間中心の場であることが指向されつつあります。

近代において社会システムとして発達した都市は、今日では人々にとってその「機能」より「居場所」としての価値が重要視されるようになってきました。

人々が活動する「場」をつくる観点から、小規模な改善を連続させる開発方式や、大規模な改変は行わずに地域の歴史の継承を重視してその保全を図り、新たな文化的価値を創造していくことが求められています。その結果として個人が孤立しない地域社会や、相互に助け合える地域社会（コミュニティ）を継承・創出されていくことを志向すべきではないでしょうか。

地域社会の価値感

- 市民型社会、人間主義
- ローカル主義、地域性重視
- 居場所としての都市・地域像の志向
- ヒューマンスケール重視、小規模開発型
- 文化創造性、歴史性の継承
- 計画・非計画の共存

2. 今後どのような社会を目指すべきなのか？

②社会像：高度情報システム社会と多様な人が共生する世界の両立

今後も技術革新により、情報システムを中心とした社会システムはますます高度化されていくことでしょう。一方で、人と人との繋がりを基本とした身近な暮らしの場は、地域ごとの特性を踏まえ、より快適に住みやすくしていくことを指向するべきではないでしょうか。

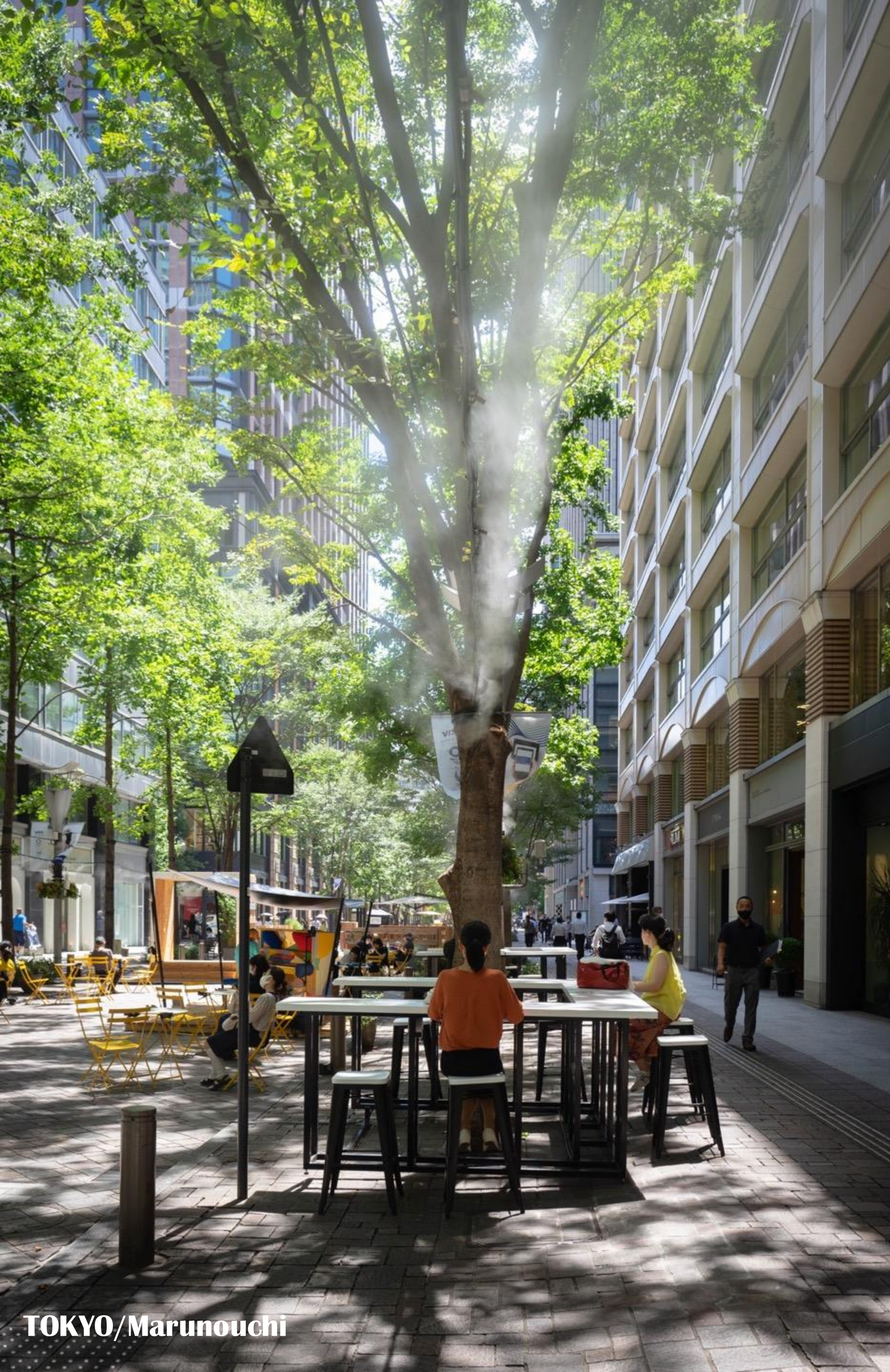
また、人口減少や不動産の遊休化、外国人の増加、ジェンダーや障がい者差別の解消等を踏まえると、地域社会は多様な人々が共生できる、多文化・多民族共生型の地域社会へと変わっていくべきではないでしょうか。

さらにやや広域的にみれば、自然環境の恵みを享受しながら自然災害への強靱性も求められる中で、一定規模の生活圏内の安全性を十分に確保しつつ、自然環境の保全・活用も図れる社会を指向していく必要があるでしょう。

社会像

- 高度な情報システムとface to face の地域社会が併存する未来
- 多文化共生、多民族共生、多主体性
- 分散型都市圏・生活圏
- 自然環境融合性・災害強靱性





2. 今後どのような社会を目指すべきなのか？

③ 仕組み像：分権型の意思決定とマネジメント体制が重要に

これまでの都市計画・まちづくり政策の流れから、今後はますますローカルな地域 社会単位で物事を決め、実行していく分権型への移行も必要と考えます。その場合、官民の各主体が対等な立場で協働し合える環境や体制を整えることが重要で、そこでの意思決定を踏まえて行政も分野横断的に判断や執行のできる仕組みを持つことが求められます。

また、都市を確実に改善していくためには、具体的なアクション（試行と検証）の積み重ねとそのフィードバックを繰り返していくことが必要で、その段階的なプロセス全体を適切にマネジメントできる仕組みを導入することも重要になります。

さらに、多様な主体が参加し、意思決定をしていく仕組みとプロセスが明確であることが重要で、限られた人々が閉じた場で物事を決めていく旧来の自治システムとは異なる仕組みや体制の構築が求められます。

仕組み像

- 地方分権型、地域政治主導型、民主化
- フラットな主体間関係（官民市民）
- 経済的自立性/完結性
- 分野横断的行政システム
- アクション志向+プロジェクトチーム型
- 適切な参加と意思決定プロセス
- マネジメントの仕組み

3. 都市プランナーが果たすべき役割

① 都市プランナーの基本的な役割像

20世紀が「都市の世紀」だったとすれば、21世紀は20世紀までに構築された都市を基盤として、如何に文化と持続可能な環境を創造し継承していくかが問われる時代になるでしょう。本会初代会長の伊藤滋は、「都市計画家は都市文化の創造を牽引する存在であるべき」とであると設立総会で述べました。

ここで都市プランナーとは、「都市づくりの営みを通じてその都市ごとの文化を育む主体の一員であり、その流れをつくる仕事と活動をする人」と定義します。都市プランナーとしてはそれぞれが有する「**技術**」のみならず、本人の「**生き方**」そのものも重要になるでしょう。

このことを念頭に、これからの都市プランナーの役割を整理すると、「ビジョンを語る」ことを中心に下図に示す5つが考えられます。ただこれは、1人のプランナーがすべての役割を担うということではなく、都市プランナーの職能としてこのような役割を担っていくことが求められるでしょう。



都市プランナーの役割像

3. 都市プランナーが果たすべき役割

②プランナーがビジョンを持って未来を切り拓く時代へ

私たちはこれからの時代において、「都市プランナー」と呼ばれる人が増えていく社会が望ましいと考えています。都市プランナーとその集団が、様々な立場の方々の思いを受け止めつつ、**積極的に未来を構想し、切り拓いていける存在**でありたいと考えています。

そのためには、都市プランナーとして仕事をする人たちの**裾野を広げて、さらなる高みを目指していく取組**（これを仮に「富士山モデル」と言います）が必要になるでしょう。そしてこれを実現するためには、個々の仕事や活動の現場において、プランナーが主導して様々な人たちとのコラボレーションの機会を増やしていくことが求められます。

その思いを共有するプランナー一人ひとりの弛まぬ努力によってこそ、豊かな都市づくりやまちづくりが各地で展開できる可能性が高まってくるのではないのでしょうか。

裾野を広げる

⇒仲間を増やす、異分野と交流する、次世代を育成する

さらなる高みを目指す

⇒プランニングのレベルを上げる、知見を集約し共有する、積極的に社会に発信する



富士山モデル



3. 都市プランナーが果たすべき役割

③ 広域的に俯瞰する視点と地域を詳細に見る視点

都市プランナーには、広く社会を俯瞰して物事を捉えて、方針や方向性を示す視点と、ローカルな地域を詳細に見て最終的に具体的な空間の計画・設計まで落とし込む技術の両方が必要と考えます。これらの視点（技術）の必要性は以前より言われていたことではありますが、社会が急速かつ大きく変容していく時代にあっては、改めてこれらの2つの視点が重要になってきます。

このうち俯瞰的な視点には、「広域的な俯瞰」という空間的な意味に加え、長期を見通す「時間的な俯瞰」、さらには、都市づくりに欠かせない様々な政策分野を横断するという「テーマ的な俯瞰」という3つの意味があると考えます。

このような見方を「鳥の目」「虫の目」と言うのであれば、現代では時代の流れを読む「魚の目」も必要と考えます。

私たち都市プランナーは、この俯瞰的な視点を持ってよりよい未来の全体像を構想し、その実現に向けて分野横断的な調整を図りつつ、時代の流れも読みながら、ローカルなエリアのビジョンを示し、その実現をサポートしていく、そのような存在を目指していくことが求められるのではないのでしょうか。



4. ローカルプランニングを考える5つの要素

①ローカルプランニングの基本認識

ここでは都市プランナーの役割のうち、ローカルなエリアでのプランニングのあり方を考えていきたいと思います。

まず、俯瞰的な視点を持ちつつもローカルな問題に対処し、物事を着実に進めることができるという意味で「総合性」が必要となるでしょう。以前より都市プランナーは「ジェネラリストか？スペシャリストか？」という議論はなされてきました。広い視野を持ちながらも具体的な空間像を描くという意味ではジェネラリスト※の面はある程度必要です。しかし一方で、万能な専門家は存在せず、また特定の専門家のみ任せることによって問題が解決する時代ではなくなりました。

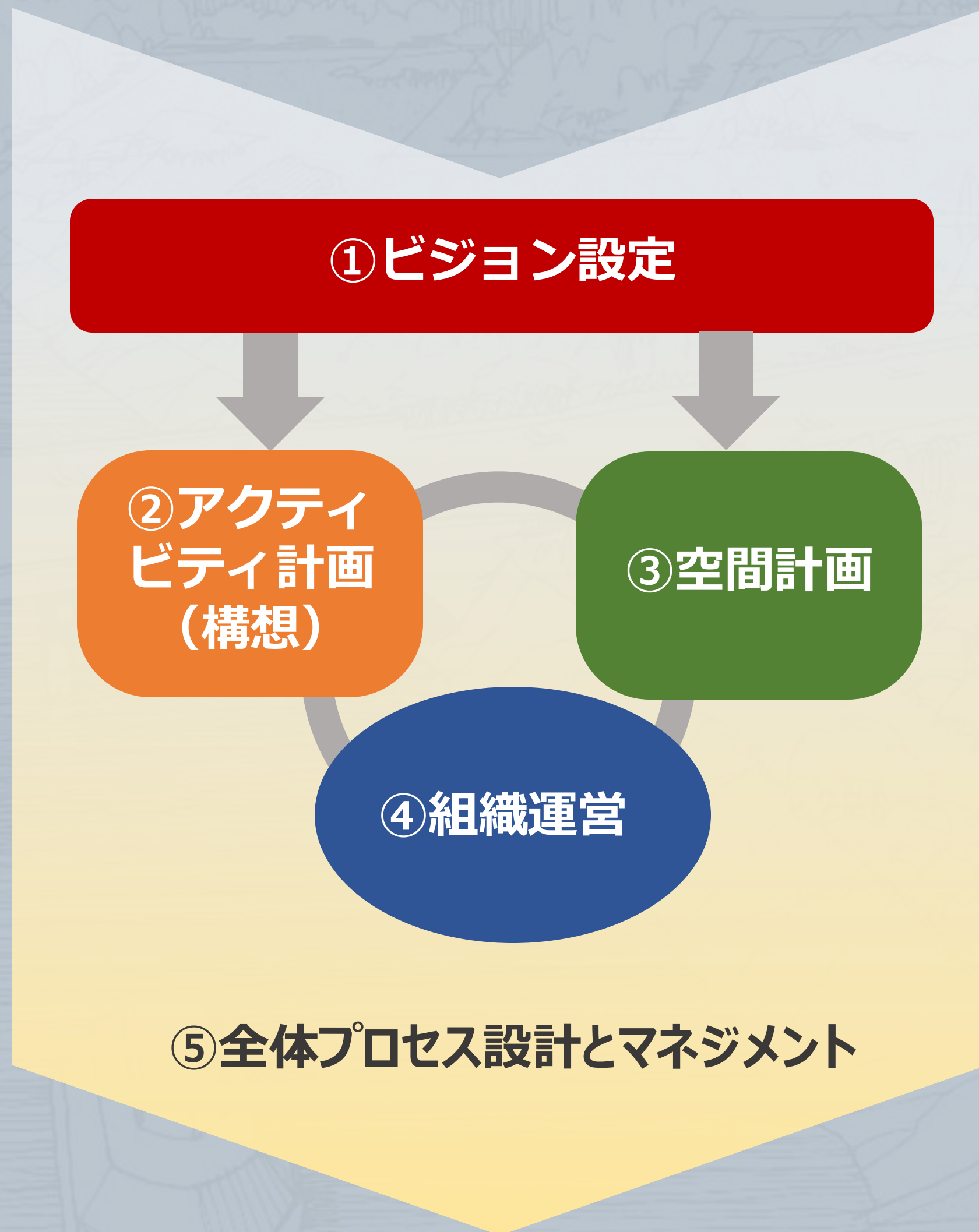
都市プランナーとしては、プランニングを担う狭義の「**プランナー**」の側面と、実際に物事を進める担い手としての「**アーバニスト**」の側面があり、両方の役割を担うことも重要です。都市計画やまちづくりが、**①計画をつくり、②それを実現させ、③持続的な活動にしていく**ことで初めて意味を持ち、都市やまちが改善していくという認識に基づけば、都市プランナーはこの全体をサポートし、担っていくことが求められるでしょう。

では次に、ローカルプランニングを考える具体的な要素についてを考えてみましょう。

※ジェネラリスト：様々な定義があると思いますが、都市・まちに関わる文化、環境、福祉、教育、技術、システム等の幅広い分野の知見を持ち、複合した問題を解決できる人的ネットワークを有し、都市やまちの計画及び実現のプロセスを構想し、調整することができる人、という定義をしていますが、一方でこのようなジェネラル性を1人が担うのではなく「チームで実現する」ことが今は重要と考えます。

4. ローカルプランニングを考える5つの要素

ローカルプランニングの5つの要素



②5つの要素：ビジョン、アクティビティ、空間、組織、プロセス

都市づくりは「空間」をつくる行為と認識されていたでしょう。近代以降、20世紀に至るまで世界各国で様々なインフラ整備を通じ多様な空間が作り出され、都市という大きなシステムができあがってきました。しかしこれからは経済成長と共に構築されてきた都市空間を如何に再構築し、より価値のある「場所」に変えていくか、そこに顕在化している課題に応える仕組みをどう持つか。結果としてそこに暮らす人々の生活を如何に豊かにしていくか、その質を如何に持続させていくかが問われていく時代になるでしょう。

その観点から、今後の都市づくりを考える要素として、**①ビジョン設定、②アクティビティ計画(構想)、③空間計画、④組織運営、⑤全体プロセス設計とマネジメント**、の5つの要素を設定しました。

重要なことは、まず明確な「①ビジョン設定」を行い、その上で具体的な「②アクティビティ」を念頭においた「③空間のプランニング」を行うこと。そしてその空間が豊かな都市生活を実感できる場として持続的に機能する柔軟かつ適切な空間の活用・管理を支える組織を「④運営」していくことにあります。さらに、一連の取組の最初から最後まで「⑤全体プロセスの設計とマネジメント」を行うことが重要で、**これら5つの要素が包括的に取り込まれてこそ、効果的な都市計画・まちづくりが進められる**ものと考えます。

4. ローカルプランニングを考える5つの要素

1-ビジョン設定

その地域の将来の目指す姿を「ビジョン」として言語化する行為です。地域の関係者の意向はもとより、その地域の歴史や文化的特性、自然的特性、経済的・社会的環境を踏まえて、実現性のあるビジョンにすることが重要です。

ビジョンの具体化を検討する際には、長期的なビジョンとともに、短期的なビジョンも示し、当面の計画や事業・活動の指針となる具体像を示す必要があるでしょう。

2-アクティビティ計画（構想）

アクティビティ計画（構想）は、空間計画に先行して構想されることが望ましいです。空間を使う主体はプランナーではないため、地域で活動する人や団体、地域の関係者などと協働し、ニーズや担い手の発掘、チームビルディング、さらには実装に向けた実験（試行）や検証を経て構想し、空間づくりへと繋げていくものです。しかし必ずしも予め全てを決めてしまう性質のものではありません。

3-空間計画

都市計画の根本ともなる空間計画は、現代では既存の「空間」を地域にとってより意味のある「場所」に変えていく試みとも言えるでしょう。地域固有の歴史や文化、コンテクストを踏まえ、その価値を付加あるいは顕在化させていくデザインの提案が重要になります。



4. ローカルプランニングを考える5つの要素

また、その場所が実際に人々に使われている姿を念頭に、アクティビティ計画を並行して立案する必要があります。

さらに、近距離移動など都市活動の現状を踏まえた新たなインフラやシステムの導入を念頭においたデザインで、災害に強く、環境改善にも寄与する空間構成や計画も求められます。

4 - 組織運営

計画に基づく整備や取組がその地域に実装され、それらが恒常的な利活用の場や活動となるためには、これを支える主体となる組織が必要になります。これまでは、まちづくり協議会などがその役割を担っていましたが、地域やビジョンの内容によっては、新たなエリアマネジメント組織やまちづくり会社などの設立が必要とされるケースもあります。

そのため、プランニングの始めや、ビジョンが見えつつある段階から組織形成に関する検討や人選、運営のための事業計画、資金計画の検討を行い、組織を始動させていくことも求められます。

5 - 全体プロセス設計とマネジメント

これからのプランニングのプロセスは、必ずしも完成に向けて一直線の道筋ではなく、計画の立案と実験・検証、そのフィードバックを繰り返して行きつ戻りつ段階的に進めていくことが常になります。最初にプロセスの全体像を描きつつ、適切な軌道修正やフィードバックによる一部見直しを行いながら、プロセス自体をマネジメントしていくことが求められるでしょう。



終わりに

都市をめぐる環境は常に大きく急速に変わり、都市計画やまちづくりに関わる主体も多様になっています。我々都市プランナーにも様々な専門分野、様々なタイプの人がありますが、都市に関わる皆さんと協働しながら作り上げていく時代になったようです。

これまでの都市プランナー像がある種の「万能型」だったすれば、これからの時代の都市プランナー像は多彩な個性を前提とした集団的な専門家像とも言えます。

日本都市計画家協会は、ここに記載した都市プランナーの役割を果たし、次世代を育成していくことを通じて社会に貢献したいと考えています。そのためには、様々な分野、立場から都市に関わる皆さんと共に行動し、考えて行くことが必要です。

各地の現場で協働し、共に未来を創造していきましょう。

2024年12月
認定特定非営利活動法人 日本都市計画家協会
会長 山本 俊哉





TOKYO/Simokitazawa

都市プランナーズビジョン2024

Our Vision as Urban Planners

2024年12月

発行 認定特定非営利活動法人 日本都市計画家協会

編集 JSURPフォーラム部会

部会長：高鍋剛、中西正彦、鈴木俊治

ご意見を頂いた皆様（順不同）

山本俊哉、渡会清治、谷村晃子、堀江佑典、加藤孝明、原拓也、江田隆三、坂井猛、中川智之、田口香子、神谷秀美、内山征、平井一步、海野芳幸、園田聡、村山顕人、平下貴博、宋俊煥、長谷川隆三、山本一馬、佐伯直、阿部俊彦、安藤裕之、小泉瑛一、小林真幸、三谷繭子、田嶋麻美、紙田和代、星卓志、姥浦道生、佐谷和江、高野哲矢、苅谷智大、右田萌、益尾孝治、野口浩平、高山登、小嶋諒生、黒崎晋司、石川岳男、大脇哲也、佐藤慶一、岸田典子